

分担金・拠出金の名称	国際開発教育・研究機関拠出金	評価	C
拠出先の国際機関名	アジア工科大学 (AIT)		
国際機関の概要	○アジア地域の土木工学等のため国際高等教育機関として1967年に設立。開発途上地域や他の国際機関に対し開発パートナーとしての認知度を上げ、協力関係を強化するため、新憲章を2010年に採択し国際機関化。2013年12月現在、50か国・地域から約1400名の学生(日本人12名)が就学している。 ○アジア地域の経済開発のために必要な土木工学等の技術者、特に高級技術者の育成、強化を目的とし、工学・技術部、環境・資源・開発学部経営学部(MBA等)において修士課程及び博士課程の教育・学位授与を行うとともに、農業・資源・開発、開発管理、貧困削減、教育、IT技術の分野において学位取得を目的としない研修プログラム等を行っている。		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1. (1) 成果目標:アジア工科大学の活動を通じた我が国重要外交施策への貢献, 我が国の対ASEAN経済協力との連携 活動指標:奨学金を通じた人材育成		これまでに我が国の奨学金を得て修士課程・博士課程を修了した学生及び在籍中の学生は900名以上。平成24年度より、我が国奨学金を得た学生は主に邦人教官が教鞭を執るリモートセンシング・地理情報システム(RS－GIS)学科を受講することが条件となっており、奨学生の多くは卒業後はこれら分野の学問を継続したり、自国の政府や国際期間に就職するなど国家・地域開発に貢献している。また、同奨学生の中には親日家となり、日本企業への就職や日本の大学への進学、卒業後邦人教官と継続して交流を続ける者もあり、こうした人材がアジア地域の開発、我が国とアジア地域の協力強化に貢献していると考えられる。	
(2) 成果目標:アジア工科大学の意思決定における我が国のプレゼンスの確保を通じ、途上国の人材育成に我が国意向を反映 活動指標:理事会への参加, 我が国拠出金の使用計画の審査等を通じた大学運営への助言等		現地大使館を通じ、オブザーバーとして理事会への参加、日本人副学長や日本人教師との情報交換を通じAITに関与している。奨学金等の使用計画の審査・承認プロセスを通じて我が国の意向を反映させ、プレゼンスを確保している。	
(3) 成果目標:効率的な組織・財政マネジメントの実現 活動指標:理事会への参加, 我が国拠出金の使用計画の審査等を通じた大学運営への助言等		理事会には現地日本大使館からオブザーバー参加しており、大学運営への助言等を行っている。 これまでに我が国拠出金により、校舎建設、機材供与、専門家派遣等幅広く行ってきた支援内容を、選択と集中の観点から段階的に見直し、2013度以降はRS－GISを専攻する学生への奨学金に限定している。	
(4) 成果目標:我が国人材の知見、専門性を通じた開発途上国の工学系人材育成への貢献 活動指標:邦人教員の確保		2015年8月現在の日本人職員数は5名(うち幹部2名)であり、過去5年間で同水準(割合として3%程度)を維持している。 我が国が拠出している奨学金は、RS－GIS学科の学生を対象としており、当該学科は主に邦人教官が教鞭を執っている。また、副学長は日本人(東京大学教授との併任)であり、大学運営に関して、現地日本大使館と情報交換を行っている。	
2. PDCAサイクルの確保		①計画段階(Plan):我が国の関連政策(ASEAN防災ネットワーク構想等)に照らしつつ、予算要求。②実施段階(Do):予算拠出。アジア工科大学から我が国に提出される奨学金の要請、執行計画を確認し、拠出金や対象学生への奨学金供与を決定。③評価段階(Check):アジア工科大学から我が国に提出される支出報告や財政・活動報告等により成果を評価。④フォローアップ(Act):理事会への在タイ日本大使館からの参加等を通じ、必要に応じて改善を提言。	
担当課・室名	国別開発協力第一課		